

## ■演劇コンクール・稽古場アンケート！ 【抗原劇場】

第11回せんがわ劇場演劇コンクール出場団体の稽古場情報を配信！

全5団体、順不同でお届けします。

今回は、【代表】の【山田カイル】さんにお話を伺いました。



### ●「劇団の成り立ち」を教えてください。

【山田】大学院を出た2018年から本格的に自分の演劇活動を始めました。当初は山田のソロユニットだったのですが、初めからレパトリーを作って長期的に作品に取り組んでいくことを目指していて、長期的に一緒につくってくれる俳優を求めてオファーをしていました。何作かつくるなかで、お互い継続的に共作していく意志がハッキリしてきた<sup>あまい あめこ ぬりべ かずみ</sup>甘井飴子と塗塀一海を迎え、昨年「劇団」になりました。

### ●活動について聞かせてください。

【山田】昨年、抗原劇場は長野県の松本市にアトリエを構えました。そのアトリエで滞在を繰り返してオーディオ作品をつくったり、松本の劇場を借りてレパトリーの映像収録をしたり、という1年になりました。劇団としてはとにかく、無理なく長く続けることが一番大事というコンセプトなので、当面は、刻一刻と変わる状況に合わせて、その時々には有効な演劇の形を考えて何かを上演するという活動になると思います。

### ●コンクール参加の動機は？

【山田】・劇団になりました！というお披露目（ご挨拶？）の場が作りたかった  
・山田は（ありがたいことに）翻訳の仕事は色々評価してもらっているが、そもそも演劇を作るのが本業なのだと世間にアピールしたい  
・銀粉蝶さんに会いたい  
・せんがわ劇場は教育普及を大事にしている劇場なので、ここで働いている人たちと会いたいと思った

### ●今回は、どんな作品でしょうか？

【山田】集まるリスクが高い世の中なので、古今東西の演劇におけるモノローグについて考えるところから出発しました。概念としての「人類」がもう限界に来ていることに対して（上演はどうなるか分かりませんが）少なくとも戯曲としては、世界も社会もマジでヤバいなかで、プラグマティズムではない前の向き方を見つけない、という気持ちで執筆しました。

●今後の展望は？

【山田】 これまでに作ったレパトリー作品をプロダクションとしてかっちり完成させて、ツアーをしたいと思っています。また、抗原劇場はアジア圏全域での活動を前提として作ったカンパニーなので、ワクチン接種が進んで海外との行き来ができるようになったら、東南アジアや中国のオルタナティブスペースを巡るリサーチ中心の企画ができないか、考えています。

---

【担当コメント】

上演以外での活動でも多才さを発揮している山田カイルさんの抗原劇場。明快なビジョンと方法論を持ち合わせている彼らの「現在地」がどのようにせんがわ劇場の舞台に立ち上がるのか、とても興味深いです！

【抗原劇場：5月29日（土）】 担当：櫻井拓見